

# YOUNG BLOOD

つなぐ！つながる！「仲間の環」 明るい未来をきり拓こう！

発行責任者：JR連合 青年・女性委員会 議長 新倉 実 編集責任者：事務長 播磨 洋佑

## 第16回青年・女性役員研修会開催！！

私たちJR連合青年・女性委員会は、3月24日（金）～25日（土）に開催された「第16回青年・女性役員研修会」に総勢38名で参画しました。今年は「民主化闘争」とは何か？なぜ行う必要があるのか？ということ、全国の青年・女性役員の仲間と共に学び、語り合い、事実を正しく理解し、実践していくことを目的に開催しました。現在のJR労働界は、国鉄時代から今日まで離合参集を繰り返し、JR連合・JR総連・国労の三極化構造となっています。これまでの歴史を刻む中で、労働運動の本質を疑うような強要事件が発生した事実について、当時の詳細を知る先輩方からお話を伺うことができました。

その事件とは、浦和電車区事件と三鷹電車区事件であり、この両事件はJR発足後約10年が経過した2000年頃に発生しました。当時JR東労組（JR総連に加盟）に加入していた運転士の方が、それぞれプライベートでJR連合組合員と交遊していたことなどを理由に、JR東労組役員らから、激しく繰り返し糾弾、恫喝され、組合脱退、さらに浦和電車区事件では、退職にまで追い込まれた事件です。こうした、組織運営の中で特定の個人を追い込み、あえて周囲に見せることで恐怖心を仰ぎ、その組織の強化を図る手段は「積極攻撃型組織防衛」と言われています。このような特異な手段で組織強化を図ることが、労働組合としてあるべき姿なのでしょうか？労働組合のあるべき姿とは、組合員の雇用を守り、現在の労働環境を維持・改善させ、組合員がより働きやすい環境を創り上げることではないかと考えます。

## これからのJR労働界を担う青年・女性世代として！

今回の研修に参加した青年・女性役員は、研修を通じて労働組合の存在意義やあるべき労働組合像・労使関係像について、自らの頭で考え、今後どのように労働運動を展開すべきなのかを改めて考える大変有意義な機会となりました。また、研修における民主化闘争の実践として、研修生全員でJR東日本の2つの車両所前でピラ配りを実施し、JR総連の異常性とJR連合運動の正当性を訴えてきました。

JR発足30年を迎え、メディアを通じてJR労働界の現状についても多く取り上げられています。真の分割民営化の完遂にむけて、民主化闘争をJR連合総掛かりで取り組み、未来あるJR産業を創り上げることが力強く確認し合いました。



JR連合では「facebook」「twitter」「instagram」を開設しています！アクセスしてネ♪

